

平成30年度 学校評価表 (中間)

学校教育目標 一歩前へ！果敢に挑戦 一夢を志に一

ミッション 「西中だからこそ」の

ビジョン 信頼され誇れる学校

A：達成 B：概ね達成 C：もう少し D：できなかった

海田町立海田西中学校

中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標 A:達成 B:概ね達成 C:もう少し D:できなかった	目標達成のための具体的方策	評価結果	自己評価	
						評価点	成果○と課題▲ 改善策
確かな学力の育成 学力で一歩前へ果敢に挑戦	○夢を志にする力の育成	各種学力調査で全国平均値を超えることができる。 ※3年:全国学力・学習状況調査【国AB数AB理】 1年,2年:CRT(標準学力検査)【国社数理英】とする。	A:全教科 B:80%以上(11教科以上) C:60%以上(8教科以上) D:60%未満(7教科以下)	・全教職員で本校の課題を共有化し、個に寄り添った学習支援をするために、「学習定着週間」や長期休業中の補充学習を行う。 ・各種テストにおいて、生徒実態を把握し、PDCAを行い授業改善につなげる。	3年 全国学力・学習状況調査 国語A (+5.9) 国語B (+4.8) 数学A (+6.9) 数学B (+7.1) 理科 (+0.9)	中間 A	○4月に行われた全国学力・学習状況調査は、全教科とも全国平均・県平均を上回ることができた。 ・学習の苦手な生徒も「学習定着習慣」などの取組により、最後まであきらめずに問題に取り組めるようになってきており、引き続き積極的に学習に取り組んで行けるような環境を作っていく。
		○授業力の向上	①授業では、解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないか」と予想しています。②授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝わるように発表をくふうしています。③振り返りを行っています。と答える生徒の割合が前年度を上回る。(※③については新規。1回目調査と最終調査の比較とする)	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:県平均 D:上回ることができなかった	・西中授業システムをベースに課題の発見と解決を目指した授業づくりを行う。 ・ICT活用で目的意識を明確にし意欲を高めグループワーク(GW)を効果的に取り入れる。また、板書や教材の提示方法を工夫するなどの視覚支援を行う。 ・校内研修会を行い、すべての教員が授業改善の視点に基づいた単元開発を行う。	西中校区1学期末アンケート結果 肯定的評価 1年 ①95.9% ②89.0% ③91.8% 2年 ①93.9% ②71.2% ③84.8% 3年 ①97.0% ②81.8% ③89.0%	中間 B
豊かな心の育成 豊かな心で一歩前へ果敢に挑戦	○生徒会活動の活性化	委員会活動の取組に積極的に協力、参加したとする生徒を80%以上にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・委員会活動の取組が生徒一人一人のものとなるよう、各委員会は取組の進捗状況並びに成果と課題を明らかにさせていくとともに、地域・保護者へ発信する広報活動をさらに推進していく。 ・委員会の取組に則り優れた学級、生徒へは積極的に全体の場で肯定的評価を行う。	肯定的評価 172(86.8%) 否定的評価 26(13.2%) 4 3 2 1 1年 17 42 10 3 2年 23 32 5 4 3年 29 29 3 1 (人)	中間 A	○肯定的評価は、3年生が93.5%と高く、次いで2年生85.9%、1年生81.9%となっており、いずれも目標値を越えている。 ▲「大いに参加、協力できた」とする生徒は、全体で34.8%。特に1年生が23.5%に留まっており、この段階への生徒の引き上げが課題である。 ・豪雨災害により、年間活動予定が遂行されない状況があったため、今後計画の修正を行い、当面は文化祭に向けテーマに沿った取組を充実させていく。
		○道徳的実践力の向上	生徒の自尊感情を高める肯定的な回答を全校で80%以上にする(QUアンケート「みんなのためになることを自分で見つけ実行している」項目)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・あらゆる教育活動において、生徒がポジティブに自己を捉えるよう、タイミングの良い肯定的評価を学校、保護者、地域が一体となって行う。 ・体験活動の意義を説明し、生徒に意欲を持たせる。	肯定的評価184(86.8%) 否定的評価 28(13.2%) 4 3 2 1 1年 31 35 7 2 2年 29 28 11 2 3年 29 32 4 2 (人)	中間 A
健やかな体の育成 たくましい体で一歩前へ果敢に挑戦	○体力の向上	体力テストで、体力項目の80%以上、全国・県平均を上回る項目がある。	A:80%以上(48項目中) B:70%以上80%未満 C:60%以上70%未満 D:60%未満	・各自目標値を持って取り組ませる。 ・弱点補強を授業とリンクさせる。	体力合計点を含む全学年54項目中45項目で全国かつ県平均を上回った-83.3%(28年度全国・29年度県平均比較)	中間 A	○それぞれの項目に数値目標を設定させ、モチベーションを高めることに努めて測定した。 ▲運動習慣に関するアンケートによると、1日の運動実施時間が30分未満と回答する生徒の割合が男子で10.7%、(昨年8.3% 一昨年7.2%) 女子で29.1%(昨年30.4% 一昨年26.2%)と男子に増加傾向が見られる。 ・保健体育科の授業では補強運動として、毎時課題に沿った運動を仕組む。 ・長期休業中、自己の体力課題に沿った取組を行わせる。 ・委員会活動を利用して、健康増進運動や縄跳びの奨励を行い、運動習慣を見直させる。 ・校内掲示等を利用し、自己の体力への関心を高めるとともに実践に向けての具体的方法を示唆する。
誇れる学校 生徒、保護者、地域が誇れる西中に	○情報の受信・発信の充実	「子どもの学校の現状について」の満足度が前年度を上回る。	A:すべての学年が前年度以上 B:一部の学年が前年度以上、どの学年も前年度未満はなし C:前年度と同じ(90%) D:前年度を上回ることができなかった	・外部の方に学校の取組ややりきる生徒、関わりきる教職員の姿を実際に見ていただく機会をふやす。 ・HPや学校便り等で生徒・教職員の前向きな姿を発信する。	1年 87.9% 2年 84.2% (88.6%) ↓ 3年 100.0% (94.9%) ↑ 合計 90.4% (93.4%) ↓ ※各学年は経年比	中間 D	○HP、学校だより等で生徒の活動や果敢に挑戦する様子や姿を発信することができた。 ▲「子どもの学校の現状について」の肯定的回答が3年生では、100%と前年度より5.1ポイント上昇していたが、全体としては約3ポイント下降している。 ・生徒の自ら気づき、考え、実行した場面を丁寧にとらえ、HP・学校だより等で『今、できること』を実行できる価値について積極的に発信する。 ・HP等で学校の取組を知っていただくとともに、文化祭、学校へ行こう週間等で学校へ来て見ていただく機会を増やしていく。